

2023 年度自己評価及び学校関係者評価シート

2023 年 2 月
認定こども園桑園幼稚園

1. 園の教育目標

ともに育ち、ともに生きる

2. 2023 年度の年主題

ともにつむぎだす ～希望の中で～

2023 年度の重点目標・計画

- ①変化の年となるが、建学の精神や保育・教育目標を常に心に留め、子どもも保育者も喜んで歩み続ける日々であるよう祈りながら保育を行う。
- ②認定こども園 1 年目の歩みを保育者、職員が思いを合わせて軌道に乗せていく。
- ③子どもたち、保護者、教職員の健康を守り、安心して園生活を送ることができるよう努める。
- ④乳児の受け入れを丁寧に行い、全ての子どもの体と心の育ちを守り支える保育とする。

3. 評価項目の達成および取り組み状況

区 分	評価	振り返りと課題	学校評価委員の評価
1 保育の 計画性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園としてスタートする中で、これまでの生活との違いに戸惑いながらも 1 号、2 号、3 号の子どもたちそれぞれが必要に応じた保育を受けられるように保育を計画し準備してきた。 ・1 号降園後、2・3 号の保育が続く中で、保育者の動きも変わり、全体での打ち合わせができず、共有できないこともあったため、保育者間で協力して、保育の振り返り、次の保育への計画等の時間を確保できるようにしたい。 ・保育後の反省、評価をするが、そのことが次の保育に活かされていないことがあるので、そこを改善したい。 	A
2 保 育 の あ り 方 ・ 園 児 へ の 対 応	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと同じ目線で遊びを全力で楽しみ、過ごすことができた。 ・一人ひとりのありのままの姿を受け入れることや、命令などの態度や言葉を控えて保育できた。 ・乳児と初めて過ごす中で、一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、言葉にならない気持ちを丁寧にくみ取ることができるよう努めた。 ・保育者が子どもの動きや表情を見て何を求めているのか、また体調の変化も見過ごさないようにする必要がある。 ・2・3 号児は園で生活する時間が長くなることを踏まえ、園生活が温かなぬくもりの中で充実したものとなるよう、保育者間で思いを合わせて保育を行っていきたい。 ・保育者が欠けるときはどこでも（どの年齢でも）サポートできるようにし保育に当たるよう心掛けた。 	B
3 教 師 と し て の 資 質 ・ 能 力 ・ 良 識 ・ 適 性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことは昨年より増して努力し、自分の力が不足している部分はほかの保育者を見て学んだり、相談してアドバイスをもらいながら保育を行えるようになった。 ・保育者間の関係を良く築きたいと願いつつ、遠慮して連携がうまくいかないことがあったので、子どもたちのためにしっかりとお互いの思いや考えを伝えてあっていきたい。 ・クラスに関わらず、職員全員で助け合って保育、仕事できた。 	B

		<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間内で仕事を終わらせることが難しかった。 ・認定こども園になり、午後の保育が続くため、時間の使い方が変わったことで保育や行事の準備が遅れてしまったり、思うように打ち合わせや共有ができないこともあったので、この反省を生かし次年度以降も保育者間で協力し、有効に時間を使っていきたい。 ・伝え忘れがあったので工夫して伝えられるようにし、チームの連携を崩さないようにしたい。 ・保育の中で自分に余裕がなくなると周りが見えなくなってしまうので、事前の準備をしっかりと行うことと、急な変更などにも動揺せずに対応したい。 	
4 保 護 者 へ の 対 応	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新園舎に戻り、保護者と直接顔を合わせて話をする機会が増えた。 ・乳児の小さな怪我を見過ごすことのないようにし、保護者との信頼関係を築いていく。 ・2, 3号園児が入園し、これまで感じたことのなかった保護者対応の悩みもあったが、保護者とよく話し信頼関係を築けるようにした。 ・2, 3号保護者の中には担任がゆっくりお話をする時間が持ちづらいこと方もいるため、工夫や努力が必要であると感じた。 	A
5 連 携 や 地 域 と の 関 わ り	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業（たんぼぼ広場等）を、主幹を中心に保育者で協力して行う流れが定着したが、それと同時に主幹に任せてしまい主体的に関わっていなかった。 ・「たんぼぼ広場」で幅広い年齢の受け入れとなったため、活動内容に配慮が必要と感じる。 ・桑園小学校の学習発表会に招かれたり、園の公開保育に参加いただくなど、関係を深めることができたと感じる。 	A
6 研 修 と 研 究	B	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の機会も多くなり、学びを実践に生かせる一年であった。 ・対面での研修に参加できない保育者もオンデマンドで同じ研修を受けられるようになったが、それを保育者間で振り返り、学びを深める時間が取れると尚よいと感じた。 ・今年度、札私幼の公開保育を担当し、分科会では「ともに育ちともに生きる保育を目指して」として事例を発表するなど、助言者の池上由紀子先生にご協力いただきながら保育を振り返り、学びを深めることができた。 	A
7 食 に 関 す る こ と	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より給食が始まり、子どもたちも最初は戸惑う姿もあったが、食べられるものを少しずつ増やしていく姿が見られた。 ・嫌いなものは無理をせず、食べるのが楽しい、嬉しい気持ちを大切にしたい。 ・栄養士、調理員が子どもたちに親しみを持ち、給食の様子や行事の食事などの様子を見に来てお話をしたり、調理室から手を振って応えてくれる関係が、子どもたちの食べる意欲、調理員さんの働く意欲につながったと思う。 ・献立表のミニコラムが保護者に好評だった。 ・試食会を3回行い、保護者のご意見やお家での子どもの食に関する様子を聞くことができた。保護者からは高評価をいただいた。 ・子どもたちはお弁当の日も喜び、どちらも大切にしていきたい。 	A

3. その他の事項

- ・社労士との打ち合わせを重ね、労働環境の改善や規則・規約の整備ができた。
- ・新しい建物となり、危険な場所、気をつけなければならない場所も見えてきたので、次年度以降も気を付けて子どもたちが安心安全に生活できるようにしたい。
- ・全国保育士会が発行する「人権擁護のためのチェックリスト」を用いて、各自が自分の保育を振り返ってみて、意図してなくても子どもの人権を傷つけ、不適切な保育になってしまうことを感じたので、子どもの人格、人権を尊重した保育を行えるよう努めたい。

4. 新年度の課題

- ・キリスト教保育の基本に立ち返り、認定こども園としての保育を作り上げていく。
- ・会議や打ち合わせの持ち方、職員間の共有や連携の仕方を工夫する。
- ・乳児の保育の学びをさらに深めていく。
- ・園児の安心安全な生活を守る。

5. 財務、経営状況

- ・公認会計士監査、監事監査により、適正に運営されていると認められている。
- ・園舎建て替えにより、独）福祉医療機構と留萌信金から受けた融資の返済が始まっている。

6. 安全管理

- ・防火管理者、衛生管理者を置き、管理を行っている。
- ・警備会社による防犯セキュリティシステムを導入していると同時に、新園舎になり玄関のロック等も防犯対策を施したものに変更された。
- ・年2回の避難、防災訓練と、学校薬剤師による環境検査も行い、指摘事項なし。
- ・現金やマイナンバーなども、厳重に管理している。

7. 学校評価委員会でのコメントと助言

- ・子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、寄り添ってくれていると感じた。
- ・その都度、子どもたちの意見も取り入れながら、柔軟に活動内容を決めているのがとても良いと思う。
- ・面談や連絡帳でのやりとりでも、一人ひとりをしっかりと見てくれていると感じ、安心して通わせることができた。
- ・遊びの中での小さなケガもすぐに対処してお迎え時に報告があり安心だった。
- ・子どもたちの学びを遊びの中で教えてくださるととても良い園だと感じる。
- ・子どもたちの元気さ、明るさから、園生活を喜んでいることが感じられた。
- ・認定こども園一年目で様々に考えることがある状況でも先生たちは穏やかであるが、その穏やかさの中にこの認定こども園の保育を作り上げていこうという思いが伝わってくる。
- ・保育は反省をしながら繰り返し行っていく作業になり、信頼関係がなければみんなで保育していくことは難しいので、これからもそこを大切に保育に励んでほしい。
- ・園日より等のおしらせについて、情報があちらこちらに書いてあって見落とししてしまうことがあるので、メ切のあるものなどは1か所にまとめて書いてほしい。
- ・認定こども園への移行、新園舎での保育開始という大きな変化の中で、保護者目線では大きな混乱もなく、不安になることもなく過ごすことができたと感じる。
- ・認定こども園に移行し、2号・3号の保護者もおられる中で、保護者と教師の会など、保護者が関わる部分のあり方の見直しは今後必要なのではないか。
- ・認定こども園としてスタートする中で大きな苦労があったことと思うが、桑園幼稚園は開園から何度か大きな試練を乗り越え、建学の精神を守り、今日があると思うので、これからも子どもたちに対する愛を大切に歩み続けてほしい。

◎助言者より

- ・子どもにとってどんな生活が望ましいのかと考え、そこを明確にし、環境設定や職員の配置などを考えて保育を行う
- ・一人ひとりが大切にされる保育の例を挙げて保育者で共有し考えあう中で、また保育者が投げかけた言葉を子どもがどう受け止めているかをよく見て感じ、それをまた言葉にして返していくことを大切にすることで、子どもの気持ちを受けとめる感性が生まれ保育者も豊かにされていく
- ・子どもの頑張っているところ、すごいと感じるところ、子どもの喜びなどを受け取った保育者が別の保育者に行う何気ない伝え合いの中で、子ども見る眼差しを育んでいく
- ・保育者間の共有や連携は一人ひとりの保育者の心がけでできることにみんなが気づいていく

といった事を大切に、今年度の評価をふまえて新年度の保育の質を向上させてほしい。

評価について

A	・十分できている
B	・できている
C	・取り組まれているが十分ではない
D	・できていない